JIPAT
The Japan Interior Planners Association Tokyo

News Letter vol. 036

東京インテリアプランナー協会　東京都品川区東五反田 5-25-19　東京デザインセンター３Ｆ　〒 141-0022
TEL. 03-3446-8860 FAX. 03-3446-1417 URL http://www.jipat.gr.jp email office@jipat.gr.jp

■インテリアプランナー 変革の年

中川　誠一

去る、5 月 29 日に開催された、JIPAT10 周年記念総会・シンポジューム・交流会には 200 名近くの方がお集まりいただき、天気に恵まれ、素晴らしい大会となりました。会員の皆様の熱意と努力に対して改めてお礼申し上げます。

あっという間の 10 年間でしたが、素晴らしい足跡を残すことが出来ました。今年はいろいろな意味で変革の年になるでしょう。

皆さんご承知のように、今年からインテリアプランナー資格制度が見直されて、受験資格は満 20 歳以上となり、試験方法も受験しやすく変わります。学科と設計製図の試験を同時に一日で実施することになりました。また、試験合格後、登録時に学歴、と実務経験を審査するようになり、経験年数もぐっと緩和されました。従って、学生が頭の柔らかいうちに受験出来るように変わります。

もうひとつは、全国組織である JIPA が、法人化に向けて数年前から NPO 法人を含めて検討を重ねてきましたが、いよいよ今年の秋に、有限責任中間法人「日本インテリアプランナー協会（JIPA）」となることがおおむね決まりました。法人化によって各地域協会はそのまま存続し、JIPAT の正会員は新法人 JIPA の会員となります。中間法人となることによって、インテリアプランナーの社会的地位を確立し、様々な事業を受託する事が可能となります。

このような風を受けて、JIPAT も新しい取り組みをはじめます。既に 10 周年大会でも発表されましたが、若手の会員とこれから IP を目指す意欲のある仲間たちが、若手活動会「I’S」を結成し積極的に活動を開始しました。また、今年から、JIPAT のこれからを考える（仮称）「ビジョン懇談会」を設立し、若い正会員と賛助会員を中心に、協会の活性化を目指すフラットな話し合いをしていきたいと考えています。私も参加したいという方、大歓迎です。事務局までご連絡下さい。

一歩一歩新しい道を、皆さんと切り開いていきましょう。

■設立１０周年記念総会を終えて

総務委員会　委員長
濱　弘美

第 10 回 通常総会は5月 29 日（土）、晴天の空の下、東京都庭園美術館大ホールにて開催されました。司会の坂本陽子さん（総務委員会）の開会の辞のあと中川会長より「JIPATは 1994 年に誕生し、この間、IPセミナーやIP－TALKなど様々な事業や活動の積み重ねによりこの 10 年を創ってきた。一方、JIPAでは IPEC-21 の開催などを通して社会に認知されつつあり、任意団体から法人化へと動き始めている。これからのJIPATは益々社会から注目を集め期待が高まっている。」旨の挨拶がありました。

各議案の審議に先立ち、議長選出（濱理事）や書記・議事録署名人選出が行われ平成 15 年度のJIPAT全体としての活動や各委員会の活動、収支決算、監査、ならびに平成 16 年度の活動計画、収支予算などの各議案の審議は満場一致で可決承認されました。また、日本インテリアプランナー協会協議会（JIPA）の活動、IPEC21-2003 及び 2004 関連や、賛助会員の会の活動などの報告がなされ、会員各位のご協力のもと滞りなく閉会いたしました。

ご協力を頂きました関係各位にこの場をお借りし感謝申しあげます。ありがとうございました。

10 周年記念総会大成功！

浦，

5 月 29 日（土）はまず、天候に恵まれた。東京都庭園美術館は元朝香宮邸でアールデコの宝庫。「シルクロードからパリコレまで」の展覧とともに建築デザインを改めて堪能した方々も多かったはず。

通常総会は粛々と進められ、新役員の顔ぶれも披露され、次はいよいよ記念行事。和服に身を包んだ戸矢崎さんの高らかな声で予定通りのスタート。200 名を目指したがちょっと届かぬ 180 名が熱気を帯びて集まってくださった。シンポジウムに先立って、会員有志撮影による「東京の風景」写真のスライドショー。粒ぞろいの写真ばかりで選ぶのに苦労したほどの出来栄え。続いてパネラーの陣内秀信さん、橋本夕紀夫さん、志村美治さんが入場し、志村さんの軽妙洒脱な進行でトークに花が咲いた。陣内さんからは歴史的、人類学的視点により東京がたくみに解剖されていく。橋本さんは実証的な店づくりを通して発言されてダイナミックな展開に。そこに、いったいインテリアプランナーには何ができるのかを考えさせる志村さんの発言が絡み合い、3 名の志向が参加者全員の頭のなかに見事に明らかにされていく時間であった。庭で缶ビール片手にトークの余韻を楽しんでいるとイリアーズの演奏が始まり、いよいよ第 2 部のパーティーの開幕。中川会長の挨拶の後、建築技術教育普及センター山中専務理事、JID の川上理事長、関西インテリアプランナー協会細田さんらから祝辞をいただく。小原先生はお話はちょっと長かったけれどお元気な様子を見せてくださった。中央のテーブルにはマグロ 1 匹の刺身が豪快に並べられ、演奏とともにパーティーは最高潮に盛り上がる。立川博章さんが描かれた見事な江戸の街並みの鳥瞰図が何枚もテーブルに並べられて本人から詳しい解説が始まり、一同、氏の薀蓄に耳を傾ける。その後は新入会員、新賛助会員の紹介に続き若手のグループ「I’s」アイズが紹介された。これからの JIPAT を担うであろう若手に激励の拍手が続く。最後はメインイベントの「富くじ」。揃いの法被に身を包んだ村口峡子さん以下の面々が「錐」で冨札を突き刺すという伝統にのっとっての大福引大会。最高賞の I-POD を当てた方に全員の羨望が集まったところで、実行委員長の浦が三本締めとして楽しくも大成功の会を締めくくったのでありました。大会の実行にご尽力いただいたたくさんの方々に改めて感謝いたします。

■ 3 分間のタイムスリップⅦ
ジョージアン様式 -1
(georgian 1714-1810)

ｉ＆ｉインテリア総合デザイン室 井上 常雄

アン王女は 14 人とも 16 人ともいわれている子持ちであったが全てが幼くして死亡、一人も世継ぎが残らなかった。その悲しみをまぎらわすためか、酒に溺れ、37 歳で王位についたときは肥満ゆえ歩行もままならなず、加えて通風に悩まされるという惨憺たるありさまで、1714 年、治世僅か 12 年で亡くなるも脳出血という当然の原因によるものだった。

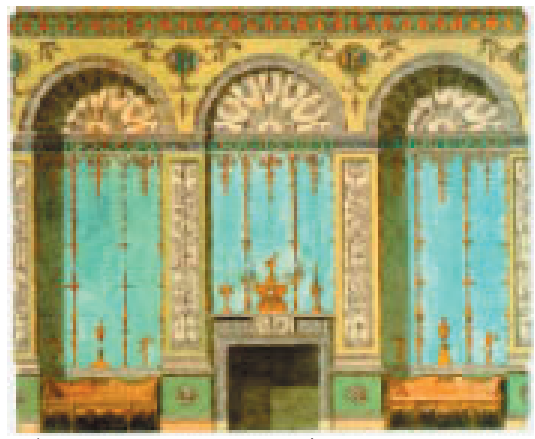
アン女王が残したものに、モーニングティーなる習慣をつくった。ただ一般庶民には 200%の関税が掛けられた紅茶は口にできない。そこで考えられたのがこのモーニングティーの、でがらしに新しい紅茶を 30%まぜたアフタヌンティーなるものが庶民のあいだに定着していく。

アンが亡くなると，ドイツのハノーバーからジョージが呼び戻され、イングランド王ジョージ 1 世として即位した。

が、この王様その時 54 才で英語が全く話せなく，議会を開いてもなんの役にも立たない。座っているだけ、そこで“キヤビネット”のあだ名がついたが，これが Cabinet『内閣，閣議』の正式名称になった。首相と書かれている本もあるようだが、「プライム・ミニスター」が首相、つまり一番上の大臣と言う意味からきているようだ。

① 1565 着工　ヴェネツイア　サン・ジョルジョ・マジョーレ教会　ペデメントがのるファーサードが特徴

②インテリアと家具デザインの統一



(Wiliam kent 1685?1748)

背景はさておき、大学卒業後、ジェントルマンの教育の仕上げとして行われたイタリア，フランスへの1～2年間の大陸修学旅行があり，なかでも 16 世紀イタリアの建築家のパラデイオ（Andrea Palladio）のデザインした建築が注目され①、イギリス国内にパラディオ風，古典主義様式のデザイン運動が起こった。

この運動のリーダーがウイリアム・ケントである。1710 年頃から 10 年間ローマを中心にパラディオ風の建物とインテリアや家具を研究し、ロンドンに帰国する。。

ケントがローマに滞在中知遇を得た、バーリントン伯爵（1695 ～ 1753）も帰同後、ロンドンを中心に、パラディオ様式の普及活動を推進していたのに接して、ケントはバーリントン伯とともに，建築や室内装飾の分野で、パラディオ様式を広めて行きました。彼は破風、飾柱、軒蛇腹およびその他の装飾ディテールを室内の壁面や扉、窓枠の意匠に採用した ②。ケントはこれらの室内装飾のディテールを、彼の家具デザイン（写真）にも採用して③、インテリアと家具デザインの統一を実現させたのです。ケントのこの取り組みによってギリシア、ローマの古典的要素を，知的グループと呼ばれる人達はイギリスの建築に積極的に取り入れました。

③

■ 宿を珪藻土で塗りつくそう、
珪藻土ワークショップ in 加賀「吉水」

衣食住を自然素材にこだわり、内装を珪藻土で仕上げた宿、”銀座吉水”がこんどは加賀（石川県）にオープンします。

元の国民宿舎「片野荘」をリフォームし再生するにあたり、皆さんの手で珪藻土を塗って頂く一大ワークショップを開催致します。人工物の見えない加賀の景観やおいしい自然食を味わえ、宿泊もできる体験会です。日程は 9 月中旬頃から各回 50 名×4回にて計 200 名を募集します。企画内容にご賛同頂ける方ならどなたでも結構です。ただいま事前申し込み受付中。

参加費 5,000 円 / 人
（小学生以下 3,000 円 / 人）
昼食･夕食つき
宿泊希望者は別途 2,000 円 / 人
朝食つき、前泊も可

お申し込みは
㈱サメジマコーポレーション
HP　http://www.samejima.co.jp
電話 044-888-0001
FAX 044-888-0002 まで

■会員交流委員会「インテリアを見る会」報告

昨年末にインテリアプランナー協会に入会させていただきました小野里と申します。よろしくお願いいたします。

今回、初めて交流委員会の「インテリアを見る会」日光・那須ツアーに参加させていただきました。日光金谷ホテルや二期倶楽部など個人ではなかなか行くことができない、施設を見学させていただける企画なので、とても楽しみにしていました。

7月3日朝7時45分東京駅集合ですから、土曜日の早起きは少し億劫でしたが、ほぼ定刻にバスが出発すると、早速できたてのおにぎり（ご飯が温かかったので）が配られ、幹事さん達のお心配りに感激いたしました。この心配りは2日間に渡る旅行期間中ずーと行き渡るものであったことは、私はこのときにはまだ気が付いていません。

土曜日の朝の下りということで、渋滞があり若干遅れて最初の見学先である関宿町の北三合板株式会社の天然木練付工場に到着いたしました。北三合板株式会社の社長より突き板の種類や厚さ、ノンホルムアルデヒド化による問題点などの話がありました。その後、工場内の見学をさせていただきました。この工場は北三グループの一つで、練付工程を専門にしています。スライスされた突き板を冷蔵室で保管していたり、合板と突き板の間に和紙を挟んで接着したりする工程に、関心が集まっていました。また、プレスの方法により突き板をあらかじめ湿らしたり、接着乾燥後に機械や人力でサンダー掛けをする工程がありました。クラロウォールナットというコブ杢の突き板を張った合板があり、これはトヨタ自動車の高級車種のインパネに使われるそうです。見本の突き板と特製の手帳を頂いて工場を後にし、次の見学先、ダントー宇都宮工場に向かいました。

約1時間のドライブで工場に到着、まず事務所棟の2階に用意されたタイル絵付け教室に案内され、各自20㎝角の白い磁器タイルに思いおもいの絵柄を描いて、焼成をお願いし、つぎに「D-hall」と呼ばれる社員食堂と製品展示がしてある、健康とエコロジーをテーマにした建物に案内されました。用意された美味しいお弁当を頂き、大満足の状態で工場見学が始まります。この工場は乾式製法（連続式真空脱水機）の最新式生産設備が備えられています。深夜電力を利用した25トンボールミルや、イタリア製の1500トン油圧成型機、40分焼成炉など最新設備を見せていただきました。

旅行中の写真はJIPATホームページに順次掲載しています。

まじめな見学会はここまで。これから一路、中禅寺湖畔に建つイタリア大使館夏期別荘を目指します。バスの中は早々と酒宴が始まりました。「しもべ」の方々の献身的な給仕により快適な旅が続きます。いろは坂のカーブで酔いが回ってきたところで湖畔に到着、遊歩道を15分ほど歩いた森の中にイタリア大使館夏期別荘が建っています。杉皮の模様張りを施した日本建築は、どことなくおしゃれな雰囲気を醸し出していました。アントニン・レーモンドの設計で1928年に建築されたものです。内部も杉皮と杉板が使われ、市松張りや網代張りなど様々な意匠を凝らしてあります。リビングから広縁を通して全面に広がる中禅寺湖の眺めは素晴らしく、当時は専用の桟橋には自家用の船が係留してあったのでしょう。

時間が許せば中善寺金谷ホテルも訪ねたかったのですが、この後に日光散策と温泉、日光金谷ホテルのディナーパーティが予定され、また先ほど上ってきたいろは坂を下り、バスの中で熾烈なじゃんけん大会で決められた部屋割りに従い、取り敢えずホテルにチェックイン。ディナー前の2時間に温泉組と市内散策組に分かれて行動し、N35号室（アルフレックスの家具が設えてある特別室）の見学会をさせていただき、ディナーにのぞみました。女性会員の方がたの見違えるドレスアップに固唾をのみながら、フレンチのフルコースと十分なワインで会話も弾み、2次会の個室に移ってからも酒宴は続きました。ここでも「しもべ」の方々の献身的なマッサージ大会が行われ、我々一般ゲストは至福の喜びを感じながら床に着くことができました。

翌日は朝食の後、金谷ホテルの中の見学をしてから金谷ホテルを後にして、大谷石資料館に向かいました。昨夜のお酒もまださめていないのに、バスに乗り込むやいなや、またまた酒宴が始まり、朝から一升瓶が傾けられます。

最近、仕事で大谷石を使うこともあり、採石抗を訪ねてみたいと思っていたのですが、やはりこの大空間は想像を超えたものでした。外気温は30度を超えるこの日の坑内の室温は9度、冷気が気持ちよかったのですが、霊気を感じた方もいたようです。

この後、昼食に本陣というおそばやさんに立ち寄り天ぷらそばを戴き、那須にある二期倶楽部に向かいます。ブナやミズナラなどの広葉樹の林の中にたたずむ、モダンでシンプルな建物は期待通りの建築です。特に20年前に建てられた本館は、大谷石と丸太の桁に三州瓦の大屋根が重厚で、砂利で作られた池が素晴らしい空間を作っています。建物の見学の後アフタヌーンティを戴き、最後の見学を終了しました。

帰りのバスでは、賛助会員さんの持ち寄られたインテリア関係のビデオを見ながらまたまた酒宴、これだけ呑んでもまだバスのトランクスペースにはお酒が残っていたそうです。アルコールのお陰で瞬く間に東京駅前に到着、予定通りに2日間の見学会は終了いたしました。

今回が3回目の企画であったそうですが、私は初めての参加でした。幹事の方々の綿密な企画と「しもべ」の方々の献身的な奉仕で、大名旅行とはこういうものかと堪能させていただきました。毎回こんな思いをさせていただくと、きっといつかは罰が当たるに決まっています。はまり込まないように十分に気を付けようと肝に命じた次第です。

■編集後記

2年間ニューズレターの編集を担当してきました。この間にたくさんの方々に原稿の協力を頂き、充実した紙面を作ることができました。ご協力本当にありがとうございました。また、実際の編集作業を行ってくれた片山氏にも感謝いたします。次号から編集担当が替わり、さらに充実した内容となることと思います。ご期待ください。

情報委員会　羽沢

発行者：東京インテリアプランナー協会　会長　中川　誠一　　編集者：情報委員会